

生成 AI がやってきた！ 東北大学における注意喚起発出の経緯と方針、そして…

三石 大*

Generative AI Has Come! Backgrounds and Policies of the Cautions Issued at Tohoku University, and Then...

Takashi MITSUISHI*

When OpenAI deployed ChatGPT to the public in the end of 2022, the high accuracy of the texts and programs generated by ChatGPT attracted a great deal of attention as soon. On the other hand, ChatGPT generates not only almost correct answers to conventional essay writing and programming tasks just only by simple query (prompt) but also these answers are so natural that it makes difficult to distinguish them from ones of human written. It is regarded as a significant matter in education. This paper shows the overviews of language-based generative AIs such as ChatGPT and discusses what are the issues to be concerned. It also shows the backgrounds and policies behind the cautions issued at Tohoku University for an example.

キーワード：生成 AI, 大規模言語モデル, 教育現場対応, 注意喚起, 教育応用

1. はじめに

ずいぶん昔の話題で恐縮だが、今からもう 40 年近く前の 1986 年（日本では 1987 年）に公開された劇場版「スタートレック」の 4 作目にあたる「スタートレック IV 故郷への長い道（原題：Star Trek IV: The Voyage Home）」の中で、過去の地球（映画の中の設定では、映画公開当時の現在）にタイムワープしたクルーの一人が、当時の Mac に接続されたマウスをマイクと思い込んで「コンピュータ！」と語りかけるも Mac は何も反応せず、クルーは怪訝な顔をするシーンがある。そう、SF の世界では、コンピュータに何か指示を出す場合、音声、それも普通の自然言語で語りかけ、コンピュータも自然言語で答えるのが常である。一方で実際にコンピュータを利用するには、ほとんど呪文のような訳のわからないコマンドをキーボードから入力するか、よくて GUI をマウスで操作する必要があった。この SF 上のコンピュータと実際のコ

ンピュータとのギャップをジョークとして盛り込んだのが前述のシーンであり、公開当時、くすりとされた方も多かったようである。当時のジョークとして、なかなかセンスのあるジョークだったように思う。ちなみにこの映画、私は熱心なトレッキーではなかったが SF 好きということもあり映画館で鑑賞している。一連のスタートレックシリーズとは少々趣を異にするものの、映画そのものも大変面白かったことを覚えており、IMDb の評価でも 7.3 ポイントと高い。それゆえ、当該シーンも多くの方の記憶に残ったのではないだろうか。今、本作のレビューを覗いてみても、このことに触れたコメントを目にすることができる。

ChatGPT を初めて使った際、私は、このスタートレックのワンシーンをすぐに思い出すこととなった。そう、このシーンで描かれたジョークが、もはや過去のものとなりつつあるのだと感じた瞬間である。

* 東北大学データ駆動科学・AI 教育研究センター (Center for Data-driven Science and Artificial Intelligence, Tohoku University)